

きらめき通信 Vol.36



みなさん、こんにちは。今回は今年の2月より歯科部門統括責任者を引き継いでいただきました口腔画像診断科講師の清水真弓先生に自己紹介していただきます。

今年の2月に前任者の城戸瑞穂先生（現：佐賀大教授）から歯科部門の統括を引き継ぎました、口腔画像診断科の清水真弓です。平成19年に文部科学省支援で当院の「きらめきプロジェクト」が立ち上げられた際には委員として関わっていましたので、ご縁があったのだと思います。

私自身は、夫は東京（東京医科歯科大勤務）、自分は一実家で両親と暮らし、つい最近まで家事も育児も両親に任せ、ほとんど独身時代と変わらない自由気ままな暮らしをしていました。ところが3年前に父が倒れて入院し、今年の2月に母が亡くなると、状況は一変。母一人、子一人の母子家庭と同じ状況となり、睡眠時間を削って家事と奮闘する毎日が始まったのです。幸い娘は中学生と大きく、作っているものを適当に食べてくれるし、塾から帰って来るのも遅いなど、小さい子を抱えている時のように四六時中気にしておく必要はありません。ですが、娘は家事を全く手伝わないので、私の時間は以前と比べるとかなり制限されています。

自分の状況が現在ようになって改めて、きらめきの先生方の出産・育児、介護、自身の病気などと仕事とをなんとか両立させようという奮闘ぶりを拝見すると、本当に頭が下がります。できるだけ応援したいと思います。どのようにサポートできるか、自分に何ができるのかを問う日々が続いています。

これはきらめきとは直接関係はありませんが、私は仕事で旧姓を使用しています。今から20年以上前の私が結婚した当時、仕事で旧姓を使おうとする人は少なかったのでしょうか。たくさんの書類を書かされ、ようやく旧姓使用が認められたにも関わらず、事務から来る書類には新姓が書かれていることがしばしば。その度に「旧姓使用が認められていますので、変更してください」と電話したものでした。最近は結婚しても旧姓を使いたいという方も増え、書類も驚くほど簡単になっています。このことから、最初はたいへんでもアクションを起こし、それが浸透していけば、物事はスムーズに運ぶようになると実感しました。きらめきの制度も発足から10年が経過し、順調に発展しています。副センター長の樗木先生を始めとするこれまでのスタッフの皆さんの努力の賜物だと思います。私自身は微力ではありますが、きらめきの制度が今後もっと認知され、さらに利用しやすく発展していけるよう、努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 2016年11月（隔月発行予定）

TEL/FAX: 092-642-5203

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師1名・歯科医師1名）を紹介します。



Merry Christmas



自己紹介

卒後12年目の内科系医師で、2015年10月よりきらめきプロジェクトに所属しています。夫（外科系医師）、娘（5歳）の3人家族で、近々2人目を出産予定です。

きらめきプロジェクトに所属するまで

大学卒業後、北九州の病院で2年間の臨床研修を行い、現在の医局へ入局しました。入局後1年間は大学病院、その後2年間は市中病院で働きました。その間に結婚し、卒後6年目に大学院へ進学しました。大学院では基礎系の研究室へ出向し、4年間研究生活を送りました。また大学院2年目で娘を出産しました。大学院生活にも慣れ、自分のペースで研究を進められるようになった頃の出産でしたので、臨床をしながらの出産よりは余裕をもって生活を送れたのではないかと思います。娘は生後4か月から学内の保育施設へ預けましたが、実験の途中で授乳に行ったり、具合が悪いときはすぐに迎えに行けたりと、とても安心でした。大学院卒業後は九大病院で勤務するようになり、医局の配慮で当直は免除され、外来業務中心の勤務を送るようになりました。そして2015年10月よりきらめきプロジェクトに所属しています。

きらめきプロジェクトに所属してから

基本的な業務内容は所属前とあまり変化はありません。ただ時短勤務でするので、夕方は早く帰ることや当直を免除されていることへの罪悪感がなくなりました。きらめきプロジェクトは業務内容に制限がなく、外来業務から研究まで幅広くこれまでと同様に継続できる点がよいと思います。また所属するまではほとんど他科の女性医師と関わる機会はありませんでしたが、定期的な話を聞くことができ、モチベーションを保つよい機会となっています。

最後に

女性は年をとるごとに、家族をはじめ周りの状況を考慮して自分の働き方を考えていかなければなりません。私は自分の実家が近く、また夫も福岡出身で、周りから多くのサポートを得ながらこれまで自分がしたいと思う仕事を続けられてきました。近々2人目を出産予定ですが、すでに1人目の時とは違う状況に不安も感じています。医師としての長期的な目標はなかなか定まりませんが、柔軟な思考をもって、その時できることを続けていければと思っています。



Merry Christmas



自己紹介

卒後8年目の歯科医師です。夫（歯科医師）、息子（小2）、娘（2歳3ヶ月）の4人家族です。

きらめきプロジェクトに所属するまで

九大病院での研修医中に一人目を出産後、後期研修医として1年間勤務し、翌年、矯正科大学院に入学しました。育児をしながら、研究、臨床の日々は、今思えばよく乗り切ったなと思えますが、家族や医局の同僚、上司の支えもあり、何とか4年で学位を取得できました。院を卒業した年に2人目を出産し、院4年生から日本学術振興会特別研究員に採用して頂いていたので、間に産休を挟みましたが、特別研究員として採用期間終了まで職務を全うしました。矯正認定医取得を目指していたため、大学病院で引き続き臨床を行えるポストに就く必要がありました。しかし、自分も、助けてくれていた家族も、いっぱいいっぱい5年間だったので、これをいい機会に、自分の働き方を変える必要があると考え、身の振り方を模索していました。そのとき、きらめきプロジェクトの秋募集を知り、採用して頂き、現在に至ります。

きらめきプロジェクトに所属してから

現在は週2回、矯正科にて担当患者さんの治療に携わっており、来年の認定医申請を目指しています。また、月に2、3回、周術期口腔ケアセンターにて全身麻酔下で手術を受けられる患者さんの口腔ケアを行っています。採用して頂いてからは、非常勤になった分、今までは家族に頼っていた子供のこと、家のことが自分でできるようになり、ようやく仕事と家庭の両立を実感できるようになりました。バタバタな毎日であることに変わりないですが、そんな中でも私の気持ちに余裕ができたということが、以前とは全く異なります。

最後に

子育てをしながらも、自分のキャリアアップを諦めることなく、仕事を続けられている今の環境に、本当に感謝しています。今後も日々研鑽を続け、スキルアップしていきます！

歯学部ジェンダー講義が行われました！

対象：歯学部2年生

日時：平成28年10月3日（月）3,4限目

講師：佐賀大学医学部生体構造機能学講座

組織・神経解剖学教授 城戸瑞穂先生



前きらめきプロジェクト歯科部門統括責任者である城戸先生の講義は、講義者と学生の双方向コミュニケーションを可能にする“クリック”（授業応答システム）を用いて行われました。

大学で何を身につけたいか、卒業後の進路について何をしたいかと問われ、研究者や行政職のチョイスもあることも紹介されました。歯科医師が社会でどのような位置にあるか、歯科医師として地域医療に貢献することの意義、研究の楽しさ、など口腔の機能の説明も交えながら話されました。

また、ジェンダーギャップ指数の話やワークライフバランスの考え方、女性の活用度と企業の経営パフォーマンスとの密接な関係についても説明され、FacebookのCOOであるシェリルサンドバーグ氏のTED講演会のビデオを視聴しました

きらめきプロジェクトや九大歯学部同窓会の話もされ、ネットワーク作りの大切さをアドバイスされました。

「論語」顔淵より『己所不欲。勿施於人』…「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」目の前の患者さんは自分の家族、大切な人だと思って最善で最高の医療を施すべく尽力して欲しい、と伝えられました。

最後に、自分でよく考え、若いうちにたくさん失敗をすることが将来の活躍につながることを力説されました。皆さんの活躍を心から祈っています、と締めくくられました。

